

具体的には、既存のシステムの安定運用に努めつつ、H30 年度末から運用を開始する火山観測データ一元化共有システムを利用してオンラインでの火山観測データの一元的な流通を推進する。開発ツールを利用して、観測データを災害対応に資する情報に変換する技術開発を行う。さらに、「課題 D-3: 火山災害対策のための情報ツールの開発」の成果を取り入れつつ、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「レジリエントな防災・減災機能の強化」の成果である災害対応支援のための利活用システムを活用し、火山観測データ表示等の機能強化を進めるとともに、個人自ら災害予防及び被害拡大防止に必要な行動をとるための科学的根拠に基づく情報が得られるツールなど、データ利活用のための防災情報基盤の開発に着手する。国際測地学・地球物理学連合 IUGG2019 年総会に出席し、一元化データを活用した研究の成果発表及び国際的なデータ共有に向けた情報収集を行う。本事業の各課題を実施する際の問題についての意見交換、情報共有等を行うため火山研究運営委員会を 2 回、本事業に参画する若手研究者の研鑽・交流等のための研究集会を 2 回、それぞれ開催する。ユーザーオリエンテッドなシステムにするため、システムの利用促進やユーザーとの交流促進のための意見交換を実施する。本事業に関連する情報(事業の内容、取組状況等)について掲載する専用ホームページの更新、その他次世代火山研究推進事業の推進に必要な業務を実施する。

なお、研究期間中に国内の火山で、噴火の予兆が把握された場合もしくは噴火が発生した場合において、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトのプロジェクト・リーダーが当該火山を対象とした緊急観測の実施を決定した際は、前記のシステム開発業務の実施において、その一環として、その計画の一部もしくはその全てに代えて、緊急観測を実施することあるいは緊急観測に協力することを可能とする。

4. 活動報告

4. 1 会議録

(1) 第 4 回火山研究運営委員会

開催日時 2018 年 10 月 26 日(金) 13 時 00 分～16 時 15 分
開催場所 防災科学技術研究所 東京会議室 D
議題

前回議事要旨確認
各研究課題の平成 30 年度の進捗状況について
事象分岐・確率評価 WG の準備状況について
その他(2)第 3 回火山研究運営委員会

(2) 次世代火山研究推進事業 H30 年度 研究集会

開催日時: 2019 年 3 月 25 日(月) 13:00～ 17:00
開催場所: フクラシア八重洲
○趣旨説明

13:00-13:03 防災科研 藤田

○各課題からのデータ提供・研究提案

13:03-13:11 B1: 東大地震研 Olah Laszlo
13:11-13:19 B2: 防災科研 小澤
13:19-13:27 B3: 東大 角野
13:27-13:35 C1: 東大地震研 安田
13:35-13:43 C2: 東大地震研 前野
13:43-13:51 C3: 防災科研 三輪
13:51-13:59 D1: アジア航測 千葉
13:59-14:07 D3: 防災科研 宮城

○一元化データを活用した研究についての提案

14:15-14:25 東大地震研 加藤
14:25-14:35 温地研 行竹
14:35-14:45 防災科研 山田
14:45-14:55 京大 横尾
14:55-15:05 京大 中道
15:05-15:15 京大 為栗
15:15-15:25 産総研 下司
15:25-15:35 防災科研 入山
15:35-15:45 北大 栗谷
15:45-15:55 東北大 小園
15:55-16:05 産総研 及川
16:05-16:15 温地研 萬年

○総合討論（司会 北大 橋本）

16:25-17:00

4. 2 対外的発表

なし

5. むすび

次世代火山研究推進事業における課題 A の目標は、主に 3 つある。1 つ目はデータ共有の仕組み作りであり、これは JVDN システムとして開発し、平成 30 年度末から運用を開始した。今後、実際の活用を通して寄せられるであろう要望や改善点を踏まえながら、さらに開発を継続していく。2 つ目が、JVDN システムをプラットフォームにして、データの活用や連携を促して、次世代火山研究推進事業のアウトプットを出すことであり、3 つ目は、JVDN システムの活用を通して火山研究の発展や防災への貢献につなげることである。このためには、課題 A にとどまらず、次世代火山研究推進事業の各課題、さらには火山コミュニティ全体で、JVDN の活用方策や、より有効活用してもらうための JVDN システムのあり方についての検討が必要であり、今後、次世代火山研究推進事業の各課題や次世代火山研究運営委員会、新たに立ち上げる JVDN の推進委員会等でさらに検討していく。